

参考法令（抜粋）

● 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律第114号）

（目的）

第1条 この法律は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関し必要な措置を定めることにより、感染症の発生を予防し、及びそのまん延の防止を図り、もって公衆衛生の向上及び増進を図ることを目的とする。

第9章 結核

（通報又は報告）

第53条の7 健康診断実施者は、定期の健康診断を行ったときは、その健康診断（第53条の4又は第53条の5の規定による診断書その他の文書の提出を受けた健康診断を含む。）につき、受診者の数その他厚生労働省令で定める事項を当該健康診断を行った場所を管轄する保健所長（その場所が保健所設置市等の区域内であるときは、保健所長及び保健所設置市等の長）を経由して、都道府県知事に通報又は報告しなければならない。

2 前項の規定は、他の法律又はこれに基づく命令若しくは規則の規定による健康診断実施者が、第53条の2第4項の規定により同条第1項の規定による健康診断とみなされる健康診断を行った場合について準用する。

（定期の健康診断）

第53条の2 労働安全衛生法（昭和47年法律第57号）第2条第3号に規定する事業者（以下この章及び第13章において「事業者」という。）、学校（専修学校及び各種学校を含み、修業年限が1年未満のものを除く。以下同じ。）の長又は矯正施設その他の施設で政令で定めるもの（以下この章及び第13章において「施設」という。）の長は、それぞれ当該事業者の行う事業において業務に従事する者、当該学校の学生、生徒若しくは児童又は当該施設に収容されている者（小学校就学の始期に達しない者を除く。）であって政令で定めるものに対して、政令で定める定期において、期日又は期間を指定して、結核に係る定期の健康診断を行わなければならない。

2 保健所長は、事業者（国、都道府県及び保健所設置市等を除く。）又は学校若しくは施設（国、都道府県又は保健所設置市等の設置する学校又は施設を除く。）の長に対し、前項の規定による定期の健康診断の期日又は期間の指定に関して指示することができる。

3 市町村長は、その管轄する区域内に居住する者（小学校就学の始期に達しない者を除く。）のうち、第1項の健康診断の対象者以外の者であって政令で定めるものに対して、政令で定める定期において、保健所長（保健所設置市等にあつては、都道府県知事）の指示を受け期日又は期間を指定して、結核に係る定期の健康診断を行わなければならない。

4 第1項の健康診断の対象者に対して労働安全衛生法、学校保健安全法(昭和33年法律第56号)その他の法律又はこれらに基づく命令若しくは規則の規定によって健康診断が行われた場合において、その健康診断が第53条の9の技術的基準に適合するものであるときは、当該対象者に対してそれぞれ事業者又は学校若しくは施設の長が、同項の規定による定期の健康診断を行ったものとみなす。

5 第1項及び第3項の規定による健康診断の回数は、政令で定める。

(受診義務)

第53条の3 前条第1項又は第3項の健康診断の対象者は、それぞれ指定された期日又は期間内に、事業者、学校若しくは施設の長又は市町村長の行う健康診断を受けなければならない。

(他で受けた健康診断)

第53条の4 定期の健康診断を受けるべき者が、健康診断を受けるべき期日又は期間満了前3月以内に第53条の9の技術的基準に適合する健康診断を受け、かつ、当該期日又は期間満了の日までに医師の診断書その他その健康診断の内容を証明する文書を当該健康診断の実施者に提出したときは、定期の健康診断を受けたものとみなす。

(定期の健康診断を受けなかった者)

第53条の5 疾病その他やむを得ない事故のため定期の健康診断を受けることができなかった者は、その事故が2月以内に消滅したときは、その事故の消滅後1月以内に、健康診断を受け、かつ、その健康診断の内容を記載した医師の診断書その他その健康診断の内容を証明する文書を当該健康診断の実施者に提出しなければならない。

(定期の健康診断に関する記録)

第53条の6 定期の健康診断の実施者(以下この章において「健康診断実施者」という。)は、定期の健康診断を行い、又は前2条の規定による診断書その他の文書の提出を受けたときは、遅滞なく、健康診断に関する記録を作成し、かつ、これを保存しなければならない。

2 健康診断実施者は、定期の健康診断を受けた者から前項の規定により作成された記録の開示を求められたときは、正当な理由がなければ、これを拒んではならない。

(他の行政機関との協議)

第53条の8 保健所長は、第53条の2第2項の規定により、事業者の行う事業において業務に従事する者で労働安全衛生法の適用を受けるものに関し、当該事業者に対して指示をするに当たっては、あらかじめ、当該事業の所在地を管轄する労働基準監督署長と協議しなければならない。

2 保健所長は、教育委員会の所管に属する学校については、第53条の2第2項の指示に代えて、その指示すべき事項を当該教育委員会に通知するものとする。

3 教育委員会は、前項の通知があったときは、必要な事項を当該学校に指示するものとする。

（厚生労働省への委任）

第 53 条の 9 定期の健康診断の方法及び技術的基準、第 53 条の 4 又は第 53 条の 5 に規定する診断書その他の文書の記載事項並びに健康診断に関する記録の様式及び保存期間は、厚生労働省令で定める。

第 13 章 費用負担

（事業者の支弁すべき費用）

第 58 条の 2 事業者（国、都道府県及び市町村を除く。）は、第 53 条の 2 第 1 項の規定による定期の健康診断に要する費用を支弁しなければならない。

（学校又は施設の設置者の支弁すべき費用）

第 58 条の 3 学校又は施設（国、都道府県又は市町村の設置する学校又は施設を除く。）の設置者は、第 53 条の 2 第 1 項の規定により、学校又は施設の長が行う定期の健康診断に要する費用を支弁しなければならない。

（都道府県の補助）

第 60 条 都道府県は、第 58 条の 3 の費用に対して、政令で定めるところにより、その 3 分の 2 を補助するものとする。

2, 3 （省略）

● 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行令（平成 10 年政令第 420 号）

（施設）

第 11 条 法第 53 条の 2 第 1 項の規定によりその長が定期の健康診断を行わなければならない施設は、次に掲げるものとする。

1 刑事施設

2 社会福祉法（昭和 26 年法律第 45 号）第 2 条第 2 項第 1 号及び第 3 号から第 6 号までに規定する施設

（定期の健康診断の対象者、定期及び回数）

第 12 条 法第 53 条の 2 第 1 項の規定により定期の健康診断を受けるべき者は、次の各号に掲げる者とし、同項の政令で定める定期は、それぞれ当該各号に定めるものとする。

1 学校（専修学校及び各種学校を含み、幼稚園を除く。）、病院、診療所、助産所、介護老人保健施設、介護医療院又は前条第 2 号に掲げる施設において業務に従事する者 毎年度

2 大学、高等学校、高等専門学校、専修学校又は各種学校（修業年限が 1 年未満のものを除く。）の学生又は生徒 入学した年度

3 前条第 1 号に掲げる施設に収容されている者 20 歳に達する日の属する年度以降において毎年度

4 前条第 2 号に掲げる施設に入所している者 65 歳に達する日の属する年度以降において毎年度

2 法第 53 条の 2 第 3 項の規定により定期の健康診断を受けるべき者は、次の各号に掲げる者とし、同項の政令で定める定期は、それぞれ当該各号に定めるものとする。

1 法第 53 条の 2 第 1 項の健康診断の対象者以外の者（市町村が定期の健康診断の必要がないと認める者及び次号に掲げる者を除く。） 65 歳に達する日の属する年度以降において毎年度

2 市町村がその管轄する区域内における結核の発生の状況、定期の健康診断による結核患者の発見率その他の事情を勘案して特に定期の健康診断の必要があると認める者 市町村が定める定期

3 法第 53 条の 2 第 1 項及び第 3 項の規定による定期の健康診断の回数は、次のとおりとする。

1 第 1 項各号及び前項第 1 号の定期の健康診断にあつては、それぞれの定期において 1 回

2 前項第 2 号の定期の健康診断にあつては、市町村が定める定期において市町村が定める回数

● 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則（平成 10 年厚生省令第 99 号）

（健康診断の方法）

第 27 条の 2 の 2 法第 9 章の規定によって行うべき健康診断の方法は、喀痰（かくたん）検査、胸部エックス線検査、聴診、打診その他必要な検査とする。

2 前項の規定は、法第 17 条第 1 項及び第 2 項の規定によって行うべき結核にかかっているかどうかに関する医師の健康診断について準用する。

（診断書等の記載事項）

第 27 条の 3 法第 53 条の 4 及び法第 53 条の 5 に規定する診断書その他の文書の記載事項は、次のとおりとする。

1 受診者の住所、氏名、生年月日及び性別

2 検査の結果及び所見

3 結核患者であるときは、病名

4 実施の年月日

5 診断書の場合には、診断した医師の住所（病院又は診療所で診療に従事している医師については、当該病院又は診療所の名称及び所在地）及び氏名

（健康診断に関する記録）

第 27 条の 4 定期の健康診断に関する記録は、前条第 1 号から第 4 号までに掲げる事項を記録し、事業者又は学校若しくは施設の長が行った健康診断については、受診者が当該事業者の行う事業、学校又は施設を離れたときから、その他の健康診断については、健康診断を行ったときから 5 年間保存しなければならない。

2 前項の規定は、法第 17 条第 1 項及び第 2 項の規定によって行うべき結核にかかっているかどうかに関する医師の健康診断について準用する。この場合において、前項中「事業者又は学校若しくは施設の長が行った健康診断については、受診者が当該事業者の行う事業、学校又は施設を離れ

たときから、その他の健康診断については、健康診断」とあるのは、「健康診断」と読み替えるものとする。

（健康診断の通報又は報告）

第 27 条の 5 定期の健康診断の実施者（次項において「健康診断実施者」という。）は、法第 53 条の 2 の規定によって行った定期の健康診断及び法第 53 条の 4 の規定によって診断書その他の文書の提出を受けた健康診断について、次に掲げる事項を、毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの期間ごとに取りまとめ、同年 4 月 10 日までに、法第 53 条の 7 第 1 項（同条第 2 項において準用する場合を含む。次項において同じ。）の規定に従い、通報又は報告しなければならない。

- 1 事業者の行う事業、学校若しくは施設の所在地及び名称又は市町村若しくは都道府県の名称
- 2 実施の年月
- 3 方法別の受診者数
- 4 発見された結核患者及び結核発病のおそれがあると診断された者の数

2 健康診断実施者は、法第 53 条の 5 の規定によって診断書その他の文書の提出を受けた健康診断について、前項各号に掲げる事項を毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの期間ごとに取りまとめ、同年 4 月 10 日までに、法第 53 条の 7 第 1 項の規定に従い、通報又は報告しなければならない。

3 第 1 項の規定は、保健所設置市等の長が法第 17 条第 1 項及び第 2 項の規定によって行った結核にかかっているかどうかに関する医師の健康診断について準用する。

● 労働安全衛生法（昭和 47 年法律第 57 号）

（定義）

第 2 条 この法律において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- 1, 2 （省略）
- 3 事業者 事業を行う者で、労働者を使用するものをいう。
- 3 の 2, 4 （省略）

● 社会福祉法（昭和 26 年法律第 45 号）

（定義）

第 2 条 この法律において「社会福祉事業」とは、第 1 種社会福祉事業及び第二種社会福祉事業をいう。

2 次に掲げる事業を第 1 種社会福祉事業とする。

- 1 生活保護法（昭和 25 年法律第 144 号）に規定する救護施設、更生施設その他生計困難者を無料又は低額な料金で入所させて生活の扶助を行うことを目的とする施設を経営する事業及び生

計困難者に対して助葬を行う事業

2 (省略)

3 老人福祉法（昭和 38 年法律第 133 号）に規定する養護老人ホーム、特別養護老人ホーム又は軽費老人ホームを経営する事業

4 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成 17 年法律第 123 号）に規定する障害者支援施設を経営する事業

5 削除

6 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律（令和 4 年法律第 52 号）に規定する女性自立支援施設を経営する事業

7 (省略)

第 2 条の 3, 4 (省略)